

独りよがり

PZ 生方冬馬

人物

藤沢美南（25）会社員

橋本紗奈（26）美南の同僚

田中弘樹（45）美南の上司・課長

江田悟志（37）美南の同僚・営業部

宅配業者（29）

○オフィス・経理部

藤沢美南（25）はPC作業をしている。オフィスの入口が騒がしくなる。

宅配業者（29）が大きなユリの花束を抱えて入ってくる。

宅配業者「藤沢美南さまはいらっしゃいますか？」

困惑する美南。

オフィス中の視線が美南に集中する。

美南、前に進み出る。

美南「藤沢ですけど……」

宅配業者「お届け物です。ハンコかサインお願いします」

宅配業者、南に向かって大きなユリの花束を差し出す。

美南、抱えるように受け取る。

オフィス内から軽いどよめきが起こる。

美南「あの、本当に私ですか？どこかと間違えてませんか？」

宅配業者、伝票を確認して。

宅配業者「いえ、確かにこちらの藤沢美南様宛ですね」

美南「ええ〜。一体誰ですか。こんなもの。

迷惑なんですけど」

宅配業者「差出人は書かれてないですね。それでは！」

宅配業者、笑顔で去っていく。

大きなユリの花束を抱えて美南、困惑している。

美南「どうしよう、これ」

橋本紗奈（26）が笑顔で近づいてくる。

紗奈「藤沢さん、なに？彼氏からのプレゼント

ト？素敵じゃん」

美南「違うってば！誰かわかんないの！」

紗奈「またまたとぼけちゃって〜。彼氏からのサプライズなんでしよう？記念日？」

美南「だーかーらー、わかんないの。もー、気持ち悪いよ。私、彼氏いないもん」

美南は必死に否定をするが、紗奈は下卑た表情を浮かべ得ている。  
田中弘樹（45）が咳払いをして近づいてくる。

田中「藤沢さん。会社にプライベートは持ち込まないでね」

美南「課長まで。本当に知らないんです」

田中「まあまあ、そういうことにしておこう。さ、橋本さんも藤沢さんも仕事に戻って」

紗奈「はい」

紗奈は戻り際に美南に囁く。

紗奈「あとで詳しく教えてね」

美南、紗奈を肘で小突く。

美南「これ、どうしよう……」

美南が大きなユリの花束を抱えて困惑していると、田中が振り向く。

田中「藤沢さん、悪いけど帰りまで給湯室のバケツにでも入れておいて。流石においておけないし」

美南「わ、わかりました」

美南、大きなユリの花束を抱えてオフィスから出ていく。

○オフィス・経理部（朝）

美南、出社。他の社員たちも出社して初めている。

美南、席にバッグを置いて仕事の準備。紗奈が近づいてくる。

美南「おはよ」

紗奈「おはよ。それよりもさ、昨日、彼氏とどうだったの？ 今日くらい、休めばよかったのにい」

美南、訳が分からないという表情。

美南「はあ？ 彼氏って、なによ」

紗奈「やだな、だから花束よ。彼氏からもらった花束。昨日はデートだったんでしょ？」

美南、露骨に嫌な顔をする。

美南「なに言ってるのよ。彼氏はいません」

紗奈「またまた、隠さなくていいんだって。

それで？プロポーズされた？結婚はい

っ？」

美南「な、なによ。その話。結婚？予定なんかない」

紗奈「私にだけこっそり教えてよ。秘密にするから。ね、どんな人？年収は？職業知りたい！」

美南、紗奈の正面に立ってキリツと見つめる。

美南「あのね。はっきり言うけど、彼氏はいません。だから、結婚もない」

紗奈「えー、つまんない。ここだけの話にするから！いいでしょう」

美南、机をバンツと叩く。

美南「違うってば。いい加減にして！」

美南、紗奈を睨みつける。紗奈、ちよつと傷ついた表情。

紗奈「怒らなくなっちゃっていいじゃない」

美南「しっこいんだもん」

田中がオフィスに入ってくる。

田中「朝礼始めるぞ」

美南・紗奈「はい」

美南と紗奈はちよつとだるそうに田中の周辺に移動する。

○オフィス・経理部

美南、イライラしながらP Cを操作している。

画面の中の社内チャットには頻繁に

「花束どうでした？」「彼氏とうまく

いきました？」「プロポーズ羨ましい

です」といった業務に関係のない私信

が飛んでくる。

無視をしている美南。

美南M「一日でどれだけ噂がまわったのよ。

関係ない支社からも来るし！仕事しなさい

よね」

気迫迫る表情で仕事をしている美南に紗奈が近づいてくる。

紗奈「そんな怖い顔してたら、彼氏にふられちゃうよ。嬉しそうにしなよ」

我慢しきれなくなった美南。

机を思い切り叩いて立ち上がって叫ぶ。

美南「だから！知らないってば！」

オフィスの中が静まり返る。怖気付いた紗奈が後退りして自席に戻る。

美南、無言で座り、仕事の続きをする。

○オフィス・エントランス・外（夜）

疲れ切った表情の美南。だるそうにオフィスから出てくる。

その美南を江田悟志（37）が追いかけてくる。

江田「あ、あの…。藤沢さん、あの…」

美南、振り向いて首をかしげる。

美南「はい…。どちらさまでしょうか…」

江田「あ、ああのは、花束…」

美南「うんざりしている。」

美南「もう、いい加減にしてください。関係ないんで」

江田「嬉しそう。」

江田「あれ、一生懸命に選んだんですよ。藤沢さんにはユリが似合うと思って……」

美南「表情を一変させて睨みつける。」

美南「あれ、あなたんですか！ 迷惑なんですけど！」

江田「藤沢さん、清楚じゃないですか。マリア様のユリってぴったりだし……。僕と藤沢さんにふさわしいと思って！ 良かったでしょう！？」

美南「なに言っているんですか。あたななんて知りません」

江田「プロポーズにはユリの花束って決めていたんだ。純血と清楚って欠かせないものだから……。藤沢さん……」

江田「美南をじっと見つめて、手を握ろうとする。」

美南、振りほどく。

江田「照れる藤沢さんも素敵なんですけど

…。僕はデートは手を握りたくて…」

美南「きもちわる…」

江田「結婚式はハワイでしましょう。僕の両親も喜んでくれます。あ、子どもは三人ほしいんです。大丈夫、専業主婦させてあげますから。僕、優しいんで」

美南をギラギラと見つめて語る江田。  
気味悪そうに江田を見つめて固まってる美南。

オフィスから紗奈が出てきて美南を呼ぶ。

紗奈「藤沢さーん、飲みに行こうよ！おごるからさー」

美南、さっと江田に背を向けて走り出す。美南、泣きそうな表情。

美南「橋本さん、一緒に行こう！」

紗奈「どうしたのよ。」

美南の表情に困惑している紗奈。美南は紗奈の手を引っ張って江田とは逆方向に歩いていく。江田は、困惑して固まっている。

江田「藤沢さん！」

紗奈「邪魔しちやっただ？」

美南「いいの！行こう」

美南、紗奈をグイグイと引っ張っていく。

○マンション3階・美南の自宅・玄関・外

(夜)

マンションのドアが勢いよく開く。美南が大きなユリの花束を掴んで出てくる。美南、大きく振りかぶって花束をぶん投げる。マンションの外に落ちていく花束。

美南「気持ち悪いんだよ！！」

美南、マンションの玄関にへたり込んで鳴き声を上げて泣く。

馬冬方生